

令和元年11月8日

バヌアツ共和国 視察 報告書

1. 期 間 8月31日(土) ~ 9月8日(日)
2. 場 所 バヌアツ共和国
3. 目 的 JCV のバヌアツ共和国支援の視察
4. 参加者 日本リユースシステム(株)
エコ得スツキリ・ライフサービス事業部 今野優子

(株)Good Service 代表取締役社長 山村直秀

特定非営利活動法人 燦 福祉作業所
天成舎 総合施設長 小川晴美
長島修次

キャップの貯金箱推進ネットワーク 湯川千春

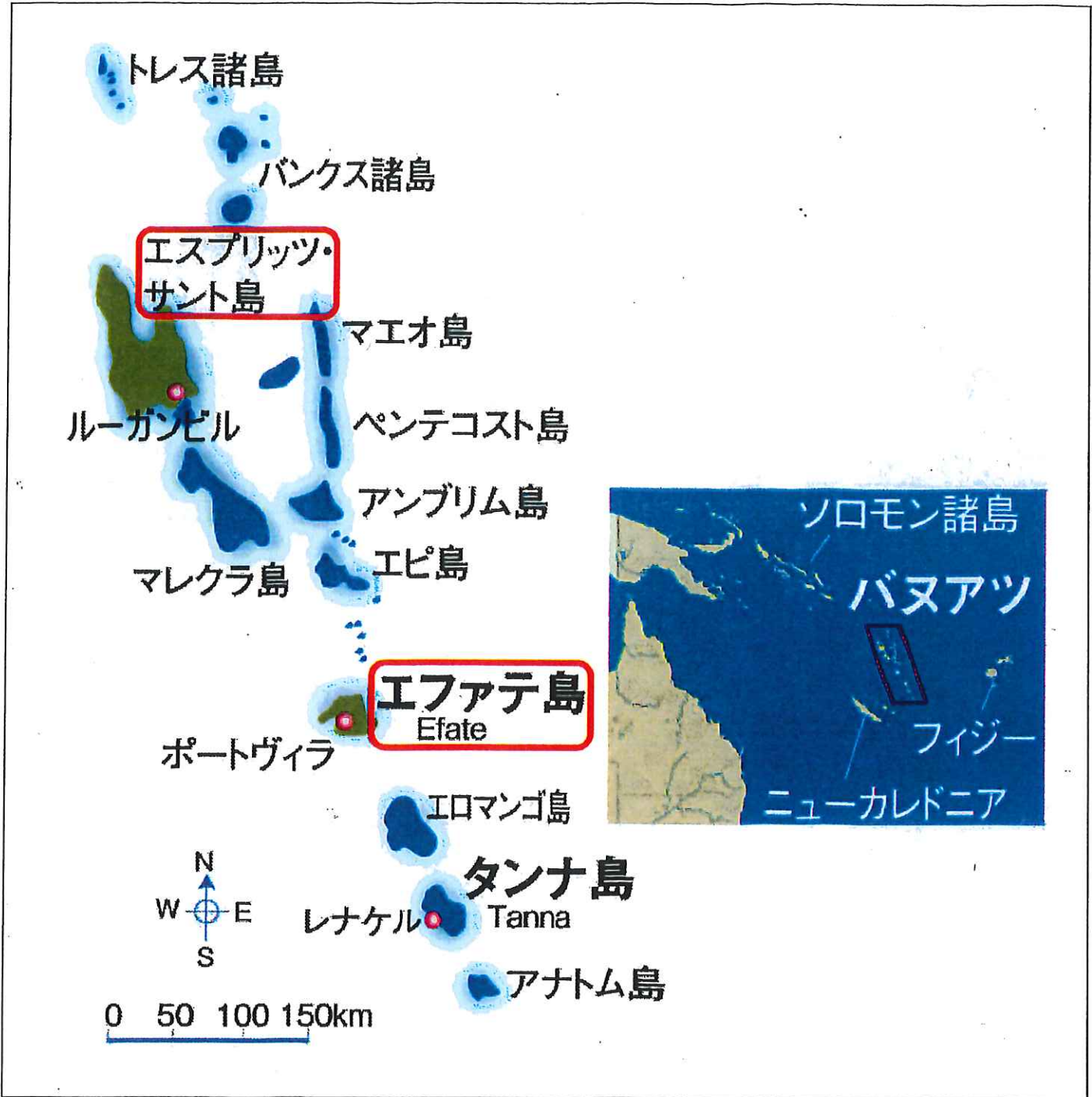
特定非営利活動法人 Re ライフスタイル 永井和美

JCV 事務局 事務局長 奥寺憲穂
ドナーケア 高橋昌裕
広 報 清水大輔
5. 訪問先 バヌアツ共和国 (エファテ島 ・ エスプリッツサント島)

主 権 JCV (認定 NPO 法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会)

バヌアツの時差と地図

日本とバヌアツの時差は、日本時刻 **+2時間** です。(※シドニーは+1時間)
(例) 日本時刻 正午 ⇒ バヌアツ時刻 午後2時



《バヌアツ共和国への出張視察報告》

【視察の目的】

JCV スタッフと支援者6名が、現在支援しているワクチン接種の現場、保健医療機関や施設、地方部の村の診療所など訪れ、現実に直接触れてきました。

国民総所得を基準にする国際支援は、一部の富裕層の所得が高いため平均値が高くなり、貧困者までに支援が行き届かないことから、JICA(独立行政法人国際協力機構)からの要請を受け、JCV が2010年より支援を開始してワクチンやコールドチェーン機材を継続的に届けてきました。

以前は、JICA が期間10年の区切りで支援していたそうです。

バヌアツ共和国は人口約28万人、南太平洋に浮かぶ83の島々が連なる小さな島国、南国リゾート地として人気を集めています。

国民の多くは豊かな大自然の中で自給自足のような生活をしていました。

1980年に独立、2006年には「地球上で最も幸せな国」に選ばれましたが、日本との差を実感せざるを得ない状況です。

【UNICEF(国際児童基金)からの現状を理解して欲しいこと】

- 現場でのスタッフのサポートの状況の確認
- バヌアツ共和国への毎年の支援することの必要性
(ワクチン接種率 90%保持したい)
- 離島でサポートに役立つ(シヨルダー型保冷庫)とソーラー発電で動かす保冷庫を増やしたい
- 接種の大切さを啓蒙しながら両親への教育をしている
※親はワクチン接種を受けていない為、両親へのワクチン接種の重要性の教育と
予防接種事業の拡大
- 予防接種の拡大により、2018年ジフテリア菌が流行したが JCV のサポートで救われた

【問題点】

- 一番は人材不足により、看護師の出張接種が充分に行えないことと予防接種の調査がままならない
- 天災が多く太陽光パネルのシステムが壊れても補充がまにあわない
- 看護師を他国から入れる計画と資金調達

【問題点】

- バヌアツ政府主導でワクチン接種のルールを作らなければならない
- 子供達にワクチン接種の必要性について広報活動の強化することにより、学校に通っている子供にワクチンが必要であることを広める
- それぞれの島の子供達にいきわたる分のワクチンの必要性

【JICA(独立行政法人国際協力機構)の現状】

- 現状では看護学校(短大)1つ存在しているが、進学する子どもが少なく人手も育たない、その為ソロモン諸島から看護師70名派遣を受けている
- JICA 武市支所長からは、保健・教育は低く・インフラ整備と病院は日本が支援しているのが現状であります

【現地で感じた事】

電気も電波も届かず電話もない生活、そんな中で病気や出産の事実も「口コミ」その口コミが正確であること、何よりも絆を大事にして全員が家族という意識が強い。

国民性は温かく明るく、私自身不思議に思ったことは、家の周りの芝刈りです。電話、テレビ、冷蔵庫もない家ですが、芝刈機は常に置いてあり、訪問した場所はその家も綺麗にしていました。

在住の日本人に問い掛けたところ、綺麗好き、特に家の周りの整理整頓は国民性とのこと、又は国技とも言えるラグビーがいつでも出来るようにとの説もありました。

1995年1月の阪神淡路大震災。先日神戸に訪問する機会があり、大震災があったことを忘れるまでに、見事に復興していました。

バヌアツ共和国も1980年に独立し、2006年には「地球上で最も幸せな国」に選ばれましたが、日本との差を実感せざるを得ない状況でした。「日本の力」の凄さを実感しました。

今まで知らなかった JICA(独立行政法人国際協力機構)の活動そしてWORLD Unicefの存在、この視察で初めて知り得ることが出来ました。

シンプルなサポートの継続が大事であるように、効率的なワクチンを提供し続けていく必要性と NPO 法人 Re ライフスタイルの重要性を強く感じて帰国しました。

《出張視察報告》

8月31日(土)

20:00 集合 羽田空港

※JCV 剣持理事長が見送りに来てくれました。



22:00 羽田空港(QF26/カンタス航空) 発

9月1日(日)

8:00 シドニー(キングスフォード・スミス国際空港) 着

今回のビザは観光ではなく、スペシャルカテゴリー(国際機関)として入国。

10:00 シドニー(キングスフォード・スミス国際空港) 発

15:25 ポートビラ(バウアフィールド空港) 着

※日本との時差 2 時間

17:00 ホテル(TheMelanesian Port-Vila-Vanuatu)チェックイン



9月2日(月)

8:30 チャーターバスにて移動

9:00 UNICEF 事務所 プリーフィング



UNICEF STAFF

Mr.Eric・Ms.Surenchimeg・Ms.Rebecca・Mr.Lawrence

通訳: 大数加(SouthPacificTours)

【Mr.Eric よりの説明】

バヌアツ共和国は、人口の 77%は貧困状態にあります。

細菌性髄膜炎(Hib)の発症が太平洋諸国で最も多く、ワクチン接種の導入が急務でしたが一部の富裕層の所得が高いために、GNI (国民総所得)を基準にする国際支援は受けられず JCV が要請を受け 2013 年から支援を開始。

交通網が発展していない国でのワクチン接種は、負担軽減の為、5種類(細菌性髄膜炎・ジフテリア・百日咳・破傷風・B 型肝炎)のワクチンを同時に接種できる五価ワクチンを採用。

1回のワクチンの容量が大きくなり、保冷库も支援しワクチンの広域流通や長期保存が可能となった。

【UNICEF スタッフの現場の声】

1. 今回の視察で現場での実際の活動を見てもらいたい。
2. 毎年のサポートはバヌアツ共和国にとって重要で、毎年同じ量の支援は将来の計画を立て易い。
3. ワクチン接種者は 90%以上。
4. ソーラーパネルで稼働する保冷库は、離島では役立ちサポートがしやすく保存ができる。
5. 親達の年代ではワクチンを受けていない為、両親へのワクチンの必要性の教育が必要
6. 予防接種の事業拡大をしていくこと。
7. 問題点
 - ・ 人材不足であるため、各島々、山村等への出張ワクチン接種が難しい。
 - ・ 看護師の不足の為他国に要請(給料、住居等の負担増の問題)
 - ・ 天災が多くパネルの損壊、蓄電池の交換など
※補充、メンテナンスの負担が出来ない

10:30 中央保冷库を視察(JCV からの寄付金で贈られた物)



※バヌアツ共和国でのワクチン接種について説明



11:15 JICA 事務所訪問

日本からの支援活動に関し青年海外協力隊の活動が活発で特に保健分野での協力が大きく寄与しているとのこと。

日本大使館も JICA やUnicef等の国際機関と連携し進めていく考えがあるとのこと

JCV に対して「今後も是非とも継続していただきたい」と懇願されました。

13:40 Vila 中央病院訪問



【所感】

バヌアツ共和国で日本の協力の下建設されたデブリーフィング国内で一番大きい病院ですが、診察、集中治療室の器具、入院用ベッドが全て中古でボロボロ、看護師の人手不足も重なり、病人の看護をするためその家族が床や廊下で皆寝転がり環境衛生上問題があると感じた。

また、入院や治療に来院する国民はそれなりに収入がある患者ばかりで、この病院治療に対応できない場合は飛行機で隣国へ移動、貧しい人は治療を受けられずに厳しい現実を目の当たりしました。

9月3日(火)

7:50 出発

8:05 MCH(母子保健センター)ワクチン接種視察



【所感】

車でワクチン接種に来た親子、収入が多いほうではと。この保健センター、課長クラスの収入は日本円に換算すると年収120万位だそうです。

9:30 Mele 保健所訪問

10:00 Mele 村でのワクチン接種(アウトリーチ)視察



【所感】

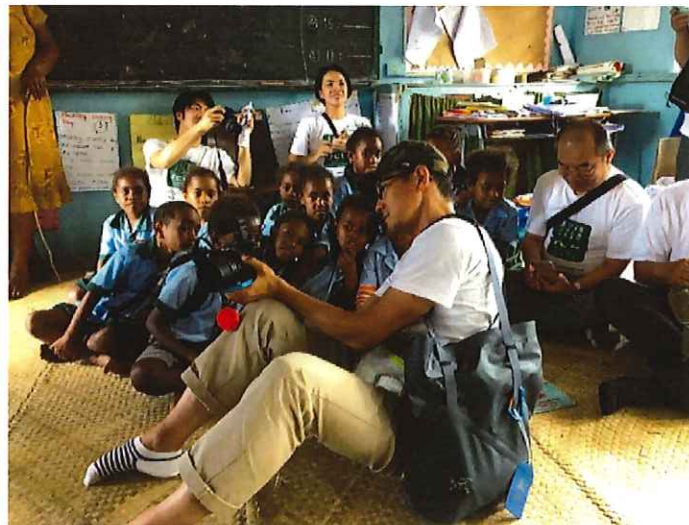
この場所は、普段朝市で使用している場所です。

青いTシャツはUNICEF スタッフ Ms.Surechimeg(モンゴル)
Mr.Lawrence(フィジー)出身です。

この場所でワクチン接種の連絡方法は電話等が無い為に全て
口コミで集まって来ます。

共同生活というより家族意識が高い国民性であると考えられます。

12:30 Mele 幼稚園、小学校訪問



【所感】

小学校1年生の授業中にお邪魔しました。

制服のある小学校に通う子は、裕福な家庭の子供が多く、防犯上親の車で送迎。

教室の壁に貼ってありました「九九表」、1～9ではなく1～12なのは何故？

13:45 EPI(ワクチンキャリア撮影)



※日本から贈られた冷蔵庫



※世界各国から届けられたワクチン

9月4日(水)

8:00 ホテルチェックアウト

12:10 ポートビラ(バウアフィールド空港)発→エスピリットサント島 着



※初めてプロペラ機乗りました。

12:30 ホテルチェックイン

13:50 Sanma 保健局訪問ブリーフィング



※デコボコ道でここまで到着しました道路の大切さを痛感致しました。

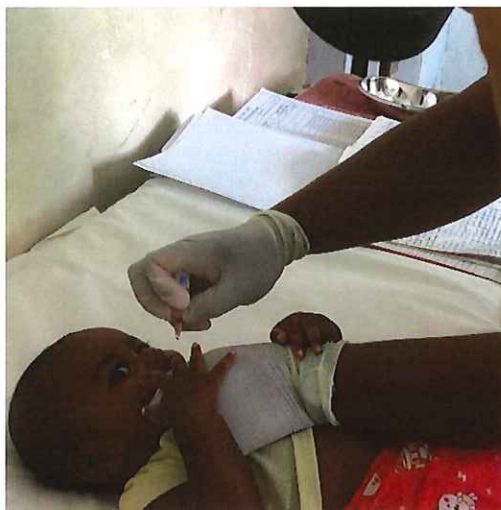
15:10 保健所訪問 出張ワクチン接種視察



9月5日(木)

8:00 ホテルチェックアウト

9:30 保健所訪問 出張ワクチン接種視察



※交通不便な為、ポリオワクチンと五価ワクチンを接種しました。

14:10 保健所訪問

18:40 エスピリットサント島 発→ポートビラ(バウアフィールド空港) 着

9月6日(金)

9:00

ホテルにて在バヌアツ日本国大使とのミーティング

バヌアツ共和国には昨年(2018年)日本大使館が開設されました。道路、電力をはじめ道路が未整備で病人の搬送に支障が出たり病院に来られないケースも。

病院の整備も重要、特に地方部では看護師の数が不足しています、また遠隔地への手段やサービスも不足しており、まだまだ支援が必要だとお話されていました。



11:00

UNICEF デブリーフィング



12:45

UNICEF バヌアツ事務所主催の昼食会

14:45

フリータイム

9月7日(土)

9:50 チェックアウト

13:20 ポートビラ発→シドニー 着

21:30 シドニー 発

14:45 フリータイム

9月8日(日)

6:30 羽田空港着 解散

【お世話になりました、スタッフの皆様】



~~ 笑顔がすてきでした ~~

